

# 平成 10 年を振り返る

4 階東病棟婦長 鈴木 多恵子

当病棟の 10 年の看護目標は、患者さまだけではなく病院全体医療関係者すべての方に対する接偶を考えて「常に相手を思いやる気持ちをもって接する。」と、しました。その目標を念頭に病棟独自で取り組んだことを報告します。

## 勉強会

1 ヶ月に 1 回、第 1 水曜日に定例で入院患者さまの何人かをピックアップして事例検討を行いました。しかし内容の充実を考えて 11 月からは第 2 内科の医師のご協力を得て検査の目的内容、検査後の看護の勉強を取り入れました。

## 看護研究委員

4 月から新人 1 名を含め 6 名で構成された委員が、昨年より引き継いで看護過程を見つめ直す事で、業務の中にどう活かしていくかを、研究しました。結論はなかなか出すことが出来ませんでした。スタッフ 1 人 1 人が自覚を持って看護していき常に評価し展開していくことが大切であると意識付けしました。

## 業務改善委員会

日々の看護業務がスムーズに効率的に行えるよう 1 ヶ月に 1 回、詰所会議の前に婦長を含め 7 名で構成された委員で会議を持ちました。内容は検査手順の見直し、カーデックスの改善、申し送りの短縮化、回診車の物品定数の見直しなどを行って来ました。

## 糖尿病教室への参加

毎週水曜日の 14 時から 15 時までの 1 時間は、当院一般病棟の入院患者さまを対象に教室を開いています。参加人数の把握や、会場の確保準備などは当病棟の看護婦 2 名が関わり、教室の内容も

全て記録して保管しています。また、第 4 水曜日は看護婦が講師となり教室を進めています。病室のベッドサイドでは、聞けないことや思っていることが身近に知ることができ、看護を展開する上で、重要な教室となっています。

## その他

臨床実習を受け入れる場として、定例化で実習の前後に指導者が集まり話し合いを持っています。以前よりスムーズに実習指導が出来ていると思われれます。又、10 年からの初めての試みで看護婦独自で、12 月末に追悼会を実施しました。テーマは「痛みについて」で、薬剤士の方 2 名にご協力頂いて講演をしていただきその後、ひとつの事例を 3 チームに分かれてグループ討議し発表し合いました。とても意義有る事と感じました。後は月 1 回詰所会議の前に婦長と主任が話し合いの場を持ち 1 ヶ月の評価と翌月への方向性を決めていきます。その中で、今 1 番問題になっていることをお互いに出し合い、情報交換をしています。以上、平成 10 年の活動内容です。このようなことから平成 11 年は

- 1) 定例化されている勉強会の内容の充実
- 2) 糖尿病教室の看護婦サイドのマニュアル作成
- 3) 看護研究の継続化及び看護過程の推進
- 4) 4 階東ポケット手帳作成
- 5) 追悼会の継続化と内容の充実

患者さまにより良い看護が提供できるようスタッフと共に頑張っていきたいとおもいます。